



「平和」とは 人間性の開花

「戦争ほど、残酷なものはない。戦争ほど、悲惨なものはない」。1964年（昭和39年）12月2日、池田名誉会長は、沖縄で小説『人間革命』の執筆を始めた。

「平和ほど、尊きものはない。平和ほど、幸福なものはない」。93年（平成5年）8月6日、広島「原

爆の日」に、『新・人間革命』をつづり始めた。

ここに、広宣流布の根本目的が、世界の平和であると示されている。

沖縄研修道場にある「世界平和の碑」。99年（同11年）2月、名誉会長がカメラに収めた。

道場一帯は沖縄返還前、核ミサイ

ルの発射基地だった。発射台は撤去も検討されていたが、名誉会長は「永遠に残そう」と提案した。「世界平和の碑」に生まれ変わったのは84年（昭和59年）のことである。

広島・長崎の原爆投下、そして終戦から69年。平和の種をまく不断の挑戦を、心に誓う夏である。

「平和」とは――
絶望を希望に変える
間断なき闘争である。
人間への信頼を断じて手放さない
不屈の根性である。
自他共の生命を最大に尊重する
人間の讃歌である。

平和とは
「武力バランス」ではない。
平和とは
「人間性の開花」なのだ。
そのためには、
文化で心を耕し、



長崎・平和祈念像の前で原爆犠牲者を
追善し、核兵器廃絶への誓いを込める
池田名誉会長（1988年5月25日）

教育でヒューマニズムの種を育て、
人間的交流で
各国に友情の橋を架けることだ。

核兵器やそのシステムが、
人間の手で
つくられたものである限り、
それを縮小し廃絶することが
できないはずはない。

弱き「善」は、
常に強き「悪」に敗れてきた。
この宿命を転換してこそ
恒久的な「平和」がある。
そのためには「強き善」
「悪とは徹底して戦い、勝つ善」の
勢力と連帯を
広げていく以外にない。

だれが見ていようといまいと、
黙々と友情を広げている人々、
友を励まし続けて生きている
民衆こそが、
「暴力なき社会」を現実
創造しているのではないだろうか。
その無名の人々こそが、
世界史の流れの先端にいる。